
もう一人の英雄

千

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もう一人の英雄

【Nコード】

N0820BA

【作者名】

千

【あらすじ】

主人公の黒鉄爽児はある日遊戯王GXの世界に転生する。そこで様々な仲間と出会い、遊城十代とともに後に英雄と語り継がれる決闘者に成長していく。初投稿です。文才0の駄作者ですがよろしくお願いします

V S クロノス（前書き）

はじめまして千です

記念すべき第一話はクロノス教諭との決闘

それではお楽しみ下さい

V S クロノス

「爽快〜早く寝なさい〜」

1階からおふくろの声が聞こえてくる。

特にすることもないので明日に備えて寝るとするか。

やあ俺は黒鉄爽快^{くろがねそつじ}、転生者だ。

まあ神様（笑）のミスで死んでお詫びとして転生させてもらったっていういつものパターンだ。

それで俺がどこに転生したかって？

それは・・・

「受験番号1番、デュエル場が上がってください」

そう、俺は遊戯王GXの世界に転生したのだ。

何でGXの世界を選んだかは遊戯王シリーズで最も面白かったからだ。

全話見たので原作知識はばっちりだし正直俺はシンクロあまり好きじゃないし・・・

ま、いいか。えーと俺の相手は・・・

「これから実技試験を始めるノ〜ネ」

まさかのクロノス教諭。つかこの人の顔間近で見ると面白すぎる。

「お願いします」

「「決闘」」

「先攻は私なノ〜ネ、ドロ〜」ニヤリ

「私は天使の施しを発動するノ〜ネ。このカードの効果によって私はカードを3枚ドロ〜し、手札からカードを2枚墓地に送るの〜ネ。私は墓地にトロイホースと古代の機械兵士を墓地に送るノ〜ネ」

外野が「クロノス教諭が手札事故？」とか騒ぎ出す。そうか、この世界はまだ墓地アドがそれほど重要視されてなかったのか。

「私は早すぎた埋葬を発動するノ〜ネ。ライフを800ポイント払うこと〜で墓地にいるモンスター1体を特殊召喚しこのカードを装備するノ〜ネ。私はトロイホースを召喚。」

クロノスのフィールドに木製の馬が出現する。

トロイホースATK1600

「トロイホースは地属性モンスターの生贄に使用する場合2体分の生贄とすることができるノ〜ネ。私はトロイホースを生贄に古代の機械巨人を生贄召喚するノ〜ネ」

トロイホースが光に包まれて消えると同時に巨大なモンスターがフィールドに出てくる。

古代の機械巨人ATK3000

「これで私はターンエンドなノ〜ネ。」

外野が「終わったな。」とかうるさいが現世では攻撃力3000のモンスターが1ターン目で出てくるのは全然珍しくない。けど特殊召喚できない古代の機械巨人を1ターンで出すのはちょっとすごい

かな。

「さすがクロノス教諭、すごいな。」

「余裕ぶつても無駄なノ〜ネ。サレンダーするなら今のうちなノ〜ネ」

「誰がサレンダーなんてするか。俺のターン、ドロー」

俺は自分の手札を見る。よし、これならいける。

「俺はバイス・ドラゴンを手札から特殊召喚する。このモンスターは相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合に攻撃力と守備力を半分にして手札から特殊召喚できる。そして俺はアックス・ドラゴニートを召喚する。」

バイス・ドラゴン ATK 1000

アックス・ドラゴニート ATK 2000

爽児のフィールドに2体の竜が並ぶ。

「そして俺は魔法カードドラゴニック・タクティクスを発動。自分フィールド上のドラゴン族モンスター2体を生贄にデッキからレベル8のドラゴン族モンスターを特殊召喚する。来い、ダークエンド・ドラゴン!!!」

2体の竜がフィールドから消え、漆黒の竜がフィールドに舞い降りる。

ダークエンド・ドラゴン ATK2600

「ふん、その程度のモンスターじゃ私の古代の機械巨人の足元にも及ばないノ〜ネ」

「それはどうかな。ダークエンドの効果発動。ダーク・イヴァポレーション!!!」

爽児が合図した途端、古代の機械巨人が闇の中に吸い込まれていく。

「一体どうなってるノーネ!!!?」

「ダークエンドは1ターンに1度攻撃力を500ポイント下げることとで相手のモンスター1体を墓地に送ることができる!!!」

「ナンデス〜トオ〜!?!」

「そしてもう先生のフィールドにモンスターはいない。ダークエンドでダイレクトアタック、ダーク・フォッグ!!!!」

「パルメザンチ〜ズ!!!」

クロノスLP4000 1900

「さらに俺は速攻魔法表裏一体を発動!俺の場のダークエンド・ドラゴンをデッキに戻し、デッキからライトエンド・ドラゴンを特殊召喚する!!!」

ライトエンド・ドラゴン ATK2600

「ライトエンドで先生にダイレクトアタック！シャイニングサブリメイション！！！」

「マンマミゝア」

クロノスLP19000

「よっしゃあ」

「この私が負けるなどありえないノゝネ。」

「すげえあのクロノス教諭に勝った」「それもワンターンキルだぞ」「ライフが1も減ってないのに」「外野が騒ぎ出す。それもそうだろう。デュエルアカデミアの実技最高責任者のクロノス相手にワンターンキルの快拳を成し遂げたのだから。」

「むかつくけどさすがに不合格にするわけにはいけないノゝネ。だけれど文句をつけてドロップアウト寮に入れてやるノゝネ。ぐふふふ」

クロノスが卑劣な考えをしている間に1人の男性が拍手をしながら爽児達に近づいてきた。そしてクロノスの顔つきが変わった。

「校長！？」

「最上級モンスターに立ち向かう勇氣に冷静な判断、大変すばらしいデュエルでした。よって君はもちろん合格です。爽児君はオベリスク・ブルーに配属します。」

「まじっすか。やった〜!!」

「ぐぬぬぬぬ」

そうしてこの長い1日は終わった。

〈余談〉

そのあとクロノスは爽児に負けたイライラを他の受験生にぶつけ容赦なく30人近くの受験生を不合格にしていたが調子に乗って十代と決闘して負けることになった。

V S クロノス（後書き）

第一話どうでしたか？

他の転生物でよく見る

トロイホース 二重召喚 古代の機械巨人

をちょっと工夫してみました。が正直どっちでもいいですね。

次回は爽児が十代とデュエルする話を書きたいと思います。

さようなら～by千～

V S 十代（前編）（前書き）

こんにちは千です。

前に予告したとおり今回は十代とのデュエルを書きます。
それではどうぞ

VS十代（前編）

「ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ、先生！！」

出番が最初だっただけに爽児は観客席でいろんなデュエルをみていた。

あの状況であのチートじみたドローはすごいな。クロノスが俺に負けたときよりいらしてて。

「まあ面白いものが見れたな」

そう思っただけで帰ろうとしたら

「おいそのあんた」

声が聞こえる方向に振り向くと十代、翔、三沢がこっちに向かって走ってきていた。

「呼んでるのは俺か受験番号110番？」

「ああ、俺は遊城十代」

「僕は丸藤翔っす」

「俺は三沢大地だ。君のデュエルは見させてもらった。」

「そうか。俺は黒鉄爽児だ。」

「聞いたぜ。お前あのクロノス先生に1キルしたんだろ？なあ俺と

デュエルしようぜ」

遅かれ早かれこうなるとは思っていたけどまさか今日あっていきなりとはな。

まあ断る理由もないしいいか。

「いいぜ。俺もお前のHEROデッキを見てみたいしな。」

そういうと二人はデュエルディスクを構えた。

「「決闘」」

爽児LP4000

十代LP4000

「先攻は貰うぜ。俺のターン、ドロー!!!」

いつも思っただけど先攻後攻って早いもの勝ちで決めるのか？

先攻とれるように練習でもしよっかなあ

ま、いいや集中。

「俺はE・HEROバブルマンを守備表示で召喚するぜ」

E・HEROバブルマンDEF 1200（アニメ効果）

でたよ強欲な泡男。

「俺はバブルマンの効果を発動する。フィールド上に他のカードがない場合にこのモンスターの召喚に成功した場合、デッキからカー

ドを2枚ドロ―する。」

OCGじゃまったく使えないのにアニメだったらほぼ強欲な壺じゃねーか。しかもこの世界だったら表側守備表示で召喚できるからなおさらチートだな。

「俺は手札から融合を発動。フィールドのバブルマンと手札のE・HEROクレイマンを融合！来い、E・HEROマッドボールマンを召喚！！」

E・HEROマッドボールマンDEF 3000

十代のフィールドの球体の戦士が腕を組んで現われる。かの青眼の白龍すら破壊できないまさに鉄壁のモンスターだ。

「俺はカードを2枚伏せ、ターンエンドだ」

「俺のターン、ドロ―！俺は手札断殺を発動。お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地に送りカードを2枚ドロ―する。」

爽児と十代はカードを捨て、その枚数分ドロ―する。

「いきなり手札事故っすかね？」と翔

「いや、爽児のことだ。何か考えがあるはずだ。」と三沢

「俺はバイス・ドラゴンを攻守を半分にして手札から特殊召喚する。そしてバイスドラゴンを生贄にストロング・ウィンド・ドラゴンを召喚する！」

ストロング・ウィンド・ドラゴン ATK 2400

バイス・ドラゴンが消えて突風が吹き、新たな龍が爽児の場に現われる。

「このモンスターは生贄にささげたモンスターの攻撃力の半分の数値を自身の攻撃力に加算する。」

ストロング・ウィンド・ドラゴン 2400 3400

「マッドボールマンを上回ったッス」

「バトル！ストロング・ウィンド・ドラゴンでE・HEROマッドボールマンを攻撃！ストロングハリケーン！！！」

ストロング・ウィンド・ドラゴンが繰り出した竜巻がマッドボールマンもろとも十代を襲う。

「そしてこのモンスターが相手の守備表示モンスターを戦闘によって破壊したとき攻撃力と守備力の差分の戦闘ダメージ与える。」

「うわぁ！」

十代 LP 4000 3600

「カードを2枚セットしターンエンドだ。」

「へへへ、楽しいぜ爽児。このデュエルすげえ楽しいよ。」

十代が笑顔で爽児に話しかけてきた。

「ああ、俺も楽しいぜ。」

爽児も笑顔で答える。

「こんな楽しいデュエルに負けるわけには行かないな。俺のターン、ドロー……！」

その場にいる全員にそのドローは輝いて見えた。

V S 十代（前編）（後書き）

自分の文才のなさに絶望です。まじで。

それにしてもバブルマンは鬼畜ですね。フィールドにカードがなかったらすぐ2枚ドロウなうえアニメでは表側守備表示でだせますからね。

次回は十代との決着を書くつもりです。

それでは千でした。さようなら

V S 十代（後編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は十代とのデュエル決着です。

どうぞお楽しみ下さい

V S 十代（後編）

「俺のターン、ドロー」

十代

LP 3600

手札 3枚

魔法・罾 2枚セット

モンスター なし

爽児

LP 4000

手札 1枚

魔法・罾 2枚セット

モンスター ストロング・ウィンド・ドラゴン ATK 3400

「俺は魔法カード命削りの宝札を発動。カードを5枚ドローし、5ターン後に手札を全て墓地に送る。」

「さらに融合回収を発動。墓地の融合と融合素材として墓地に送られたクレイマンを手札に加える。そして俺は手札に加えた融合を発動するぜ！俺は手札のE・HEROクレイマンとE・HEROスパークマンを融合する。来い、E・HEROサンダー・ジャイアント！！！！」

E・HEROサンダージャイアント ATK 2400

「俺は魔法カードH・ヒートハートを発動。サンダー・ジャイアントの攻撃力を500ポイントアップさせ、貫通効果を与えるぜ」

E・HEROサンダー・ジャイアントATK 2400 2900

「だけどストロング・ウィンド・ドラゴンの攻撃力は3400。攻撃力がまだ足りないッス。」

あつ、そうか。確かサンダー・ジャイアントの初登場はあの偽ラブレター事件だからこいつの効果を知らないのか。

「ああ、確かに攻撃力じゃサンダー・ジャイアントは敵わない。だけど俺はサンダー・ジャイアントの効果を発動！元々の攻撃力がこのモンスターの攻撃力以下のモンスター1体を破壊する。ヴェイパー・スパークー！」

サンダー・ジャイアントが放った雷撃がストロング・ウィンド・ドラゴンを直撃し、破壊する。

「ぐっ・・・」

「へそつか、アニメのサンダー・ジャイアントの効果は手札コストなしの強制効果だったな」

「これで爽児、お前の場にモンスターはいない。サンダー・ジャイアントでダイレクトアタック！ボルティック・サンダー！！！」

サンダー・ジャイアントが放った雷が爽児を襲

わなかった。

「残念だったな十代。俺は罨カードガード・ブロックを発動した。俺が受ける戦闘ダメージを0にしてカードを1枚ドロウする。」

「うまい、これで攻撃力上がったサンダー・ジャイアントの攻撃を防ぎつつアドバンテージを稼いだぞ。」と三沢

「くっそー。通ったと思ったのにな。俺はターンを終了する。」

「俺のターン、ドロー」

「俺は墓地のミンゲイドラゴンの効果を発動する。」

「墓地からだっ。いつの間に！」

「忘れたのか十代、1ターン目に俺は手札断殺でこのカードを墓地に送ったんだ。そしてこのモンスターは自分フィールド上にモンスターが存在せず、自分の墓地のモンスターがドラゴン族だけだった場合スタンバイフェイズ時に墓地から特殊召喚できる。だがこの効果で特殊召喚したミンゲイドラゴンはフィールドから離れた場合ゲームから除外されるがな。」

ミンゲイドラゴンDEF 200

翼を広げた首の長い小型の竜が爽児のフィールドに現われる。

「このモンスターはドラゴン族モンスターの生贄とする場合2体分の生贄とすることができる。俺はミンゲイドラゴンを生贄にダーク

エンド・ドラゴンを召喚する！」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600

「ダークエンドの効果を発動！サンダー・ジャイアントは墓地で眠ってもらう。ダーク・イヴァポレイション！」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600 2100

「よし、ダークエンドでダイレクトアタック、ダーク・フォ「させるかよ、俺は罠カードヒーロー見参を発動するぜ。相手モンスターの攻撃宣言時、相手は手札を1枚選ぶ。そのカードがモンスターだった場合そのモンスターを特殊召喚できる。さあ選べ爽児」・・・俺は一番右のカードを選ぶ。」

爽児が指定したカードは・・・

「よっしゃあ、俺はE・HEROエッジマンを特殊召喚するぜ！」

十代のフィールドに黄金の戦士が現われる。

「クソッ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロ。バトル、エッジマンでダークエンド・ドラゴンを攻撃、パワーエッジアタック！」

「俺は罠カードドラゴン・エヴォリューションを発動。フィールドのドラゴン族モンスターを生贄にささげ、そのモンスターのレベル+1のレベルを持つモンスターを手札から特殊召喚する。来いライトエンド・ドラゴン！」

ライトエンド・ドラゴン ATK 2600

「エッジマンと互角か……。だけど俺は攻撃を続ける、パワーエッジアタック!!」

「甘い、俺はライトエンドの効果を発動する!このモンスターの攻撃力を500ポイント下げることによって相手モンスターの攻撃力を1500ポイント下げる!ライト・イクスパンション!!」

ライトエンドドラゴン ATK 2600 2100

E・HEROエッジマン ATK 2600 1100

ライトエンド・ドラゴンが放った光線がエッジマンに直撃しエッジマンを弱体化させた。

「うっ!!」

「向かい打て、シャイニングサプリメーション!!」

「うわっ!!」

十代

LP 3600 2600

「カードを1枚セットし、E・HEROフェザーマンを守備表示で召喚しターンエンドだ。」

E・HEROフェザーマン DEF 1000

「俺のターン、ドロー。」

「俺は攻撃の無力化をセットした。このターンは凌いでみせる。」

「俺は墓地のミンゲイドラゴンの効果を発動!!」

「えっ、ミンゲイドラゴンはさっき除外されたんじゃないんすか？」

「翔、誰も俺の墓地にいるミンゲイドラゴンが1体だけなんていてないぞ。」

「まさか手札断殺で2枚のミンゲイドラゴンを墓地に・・・」

「その通りだ三沢、来い、ミンゲイドラゴン!」

ミンゲイドラゴンDEF 200

「俺も命削りの宝札を発動し、カードを5枚ドロウする。十代、このデュエル俺の勝ちだ。速攻魔法カード竜の魔眼発動。自分フィールド上のドラゴン族モンスターの数だけ相手の魔法・罠カードを破壊する。」

十代の伏せた攻撃の無力化とアナザー・フュージョンが破壊される。

「そして俺はミンゲイドラゴンを生贄にささげ、俺の最強の切り札、光と闇の竜を召喚する!!」

ミンゲイドラゴンが消えると同時に直視できないほどの眩しく美しい竜がフィールドに舞い降りる。

「すげえ、すげえよ爽児！こんなモンスターを召喚するなんて、お前本当に最高だぜ！」

「ああ、このデュエルはとても楽しかった。が、俺の勝ちだ。ライトエンドでフェザーマンを攻撃、シャイニングサプリーメイション！」

「グッ！」

「これで終わりだ。光と闇の竜でダイレクトアタック、シャイニングブレス！！！！！」

十代

26000

こうして二人のデュエルは爽児の勝利で終わった。

V S 十代（後編）（後書き）

はい、結局爽児の勝ちで終わりました。十代ファンの皆さんゴメンね。

今更ですがライトエンド・ドラゴンとダークエンド・ドラゴンは漫画GXと同じものだと考えてください。あとドラゴン・エヴォリションや竜の魔眼等漫画カードもバンバン使っていくので、「あれ、こんなカードあったっけ」みたいなことがあったら未OCカードwikiで調べてください。作者は基本そこから選んでいます。

あとお気に入り登録してくださった方々本当にありがとうございます。質問、アドバイス等もあったら遠慮なく言ってください。

次はデュエルアカデミア入学と万丈目に絡まれる話を書きます。

それではさようなら

V S オベリスクのバカAとBとC（前書き）

こんにちは千です。

まずお気に入り登録してくれた方々ありがとうございました。
これからも頑張ります。

あと今回から『今回の最強カード』の企画を始めます。
暇な人は最後に乗ってるからぜひ見てください。

それではお楽しみ下さい

VSオベリスクのバカAとBとC

「光と闇の竜の攻撃、シャイニングブレス!!!」

「うわああああ」

十代 LP 2600 0

十代のライフが0になった瞬間お互いのソリッドヴィジョンが消える。

「くっそー負けちまったか。」

「惜しかったな。俺がもし竜の魔眼を引かなかったらお前はこのターンは生き延びたかも知れないのにな。」

「ああ、けどすっげえ楽しかったぜ。もう一回やろうぜ!」

このデュエル馬鹿は・・・

「待ってくれ、俺ともデュエルしてくれないか?」

「ぼ、僕もやりたいッス。」

「悪いな、けど今日は疲れた。アカデミアにいたらまたやろうぜ。」

「本当か?約束だぞ。」

「ああ、俺は約束は絶対守るからな。楽しみにしてるぜ。」

こうして爽児と十代の初対決は爽児の勝ちで終わった。

それから数週間後、アカデミアから正式に合格通知が届いた。勿論俺は合格してて、校長先生の言ってた通りオベリスク・ブルーに所属することになった。

「じゃあいつてらっしやい爽児。お母さんは船着場まで送ってあげれないけどいつもお家で爽児のこと応援してるからね。がんばってらっしやい。」

母親から温かい言葉を貰って俺は家をあとにした。

そのあとは面倒だから省略する。爽児は人生ではじめて船に乗って、酔って死にそうになり、アカデミアに着いたら校長の長い話を聞かされるといった感じだ。

「それではこれで入学式は終わりだ。生徒は各々が指定された寮に行き、先生の指示に従って荷物を置くこと。尚7時から新入生歓迎パーティを開催するので遅れないように。解散。」

「すげえ。広すぎだろこの部屋。」

現在爽児はオベリスク・ブルー寮の一室、爽児の部屋、にいる。まるで高級ホテルのような部屋には最新型のパソコンやでかいテレ

ビ、ふかふかのベッドがあった。
部屋を一通り見たあと爽児は荷物を置いてベッドで寝転がっていた。
すると

ピピピピピ

「おっPDAが鳴ってる。」

PDAとはアカデミアの生徒に支給される携帯電話のようなもので、生徒間の通話やメールは勿論、先生からの連絡や辞書、カードの資料、学園内の地図などがある優れた機械だ。

「FROM先生

7時の新生歓迎会まであと20分なので遅れないように。

場所はオベリスク・ブルー寮のホール。

尚新生との交流を深めるためにデュエル大会をやるので各自デッキを持参するように。

以上。」

「あと20分か……。どうせ早く行っても暇だろうからちょっと外の空気を吸ってくるか。」

こんな感じで爽児は外に出て……………

早速絡まれるのであった。出たサンダー+その取り巻き・

「貴様が黒鉄爽児か。まぐれとは言えどもあのクロノス教諭を1キルしたデュエリストは。」

わざわざ「まぐれ」の部分を強調するあたりが腹立つな。

「そうだがお前は誰だ？」

「おおと失礼。俺の名前は万丈目準だ。俺様が貴様に声をかけた理由はひとつ。俺達と一緒にこの学園をよりよい学園にする計画の協力者とならないか？」

どうせろくでもない計画なんだろうけど一応聞いてみるか。

「へえ、面白そうだな。一体どんな計画だ？」

「良くぞ聞いてくれた。デュエルアカデミアには3つの階級が存在する。我らが選ばれしエリートのブルー、デュエルの腕も勉強も中途半端なイエロー、あらゆるものに落ちこぼれているレッドの3つだ。なぜ我らがエリートがこんなドロップアウト共と学園生活を送らなければならないのだ。そこで考えた。邪魔者は排除すればいいだけだ。エリートではないレッドやイエローを学校から追い出し、この学校をエリートの学園にすればいいのだ。どうだ、黒鉄爽児、お前もこの計画の協力者となら」断る。」「・・・何だと？」

「断るって言ったんだ。確かにイエローやレッドはブルーに比べて劣っているものがあるかもしれない。だからって学園から排除する？寝言は寝てから言え馬鹿野郎。」

「何だと」

「てめえ」

「言わせておけば」

「うるせえよ。それにお前が落ちこぼれだというレッドやイエローに俺が知ってる中で一人ずつお前らなんか瞬殺するデュエリストを俺は知ってるぞ。」

「「「あんだとお」「」「」

「待てお前ら。聞いてみようか、お前がそこまで言う落ちこぼれのことを。」

「イエローの三沢大地にレッドの遊城十代だ。おつ噂をすれば。おーい、十代！」

偶然そこには道に迷った十代と翔がいた。

「おー爽児。助かった。あのさレッド寮への行き方教えてくんねえか？」

「ふん、こんな道も分からないような奴が俺達を瞬殺だと？笑わせる。レッド寮はここから南に真っ直ぐ行って灯台が見えたら右折すればすぐ見える。」

地味に道案内した。もしかしてこいつ意外といい奴なのか？

「おお、サンキュー。じゃあな爽児。約束覚えてるよな。」

「ああ、勿論だ。」

「……ちょっと待てえええええ！」

「うお、どうした万丈目」

「万丈目『さん』だ。おい遊城十代。貴様今ここで俺様とデュエルしろ。貴様らにエリートと落ちこぼれの格の違いを見せつけたやる」

「デュエルはいつでも大歓迎だぜ」

「「決闘「そこまでよ」「」」

声がした森の方向を向くとそこに明日香がいた。

「へすげえ美人だな。だけどこいついつから居たんだ？」

「黒鉄君あなた今私の影が薄いつて思ったでしょ。」

「へ何で分かったんだ？」

「凶星のようね」

「天上院君、今この落ちこぼれにデュエルアカデミアの厳しさを叩き込んでやるところだったんだ。邪魔しないでくれるかな。」

「あなた達デュエルするのはいいけど新入生歓迎会まであと5分よ。」

「やべえ、じゃあな万丈目、爽児。行くぞ翔！」

「僕台詞1つもなかったッス」

あつ翔居たんだ。

「万丈目『さん』だ！！俺らも行くぞ。」

「『はい、万丈目さん』」

「ありがとな、えーと・・・」

一応初対面なので知らない振りをする。

「天上院明日香よ。明日香って呼んで頂戴。」

「分かった。じゃ俺も爽児って呼んでくれ。苗字で呼ばれると違和感がある。けど何で明日香は俺のこと知ってるんだ？」

なんだろう。普通に質問しただけのにため息つかれた。

「あなたがどれだけ目立ってるか知らないの？あのクロノス教諭を１キルして、その日に同じくクロノス教諭に勝った遊城十代にノーダメージで勝利して、それにその容姿・・・」

俺って人気なんだな。最後のはよく分かんないけど。

「とりあえず万丈目君には気をつけたほうがいいわよ。彼は自分がエリートだって豪語してるけど、口だけではないからね。デュエルの腕もすごいし、あの万丈目グループの三男だしね。」

明日香って情報通なんだな。

「ありがとう、気をつけておくよ。」

こんな感じで時間をつぶし、新入生歓迎パーティには滑り込みセーフでさらに目立ってしまった。デュエル大会では勿論優勝したぜ。だけどたくさん生徒（主に女子）からメアド聞かれたのは俺が教諭をキルしたから？

――――

「あー疲れた・・・」

ただいま俺はベッドの上でぐったりしてる。パーティの最中もあともしんな人（主に女子）に絡まれだるかった。だけどこのベッドはまじいいな。このまま深い眠りに・・・

ピピピピピ

落ちなかった。

何だこんな時間に・・・

「FROM 万丈目準

今夜の12時にお互いのベストカードをかけたアンティルールのデュエルをやる。」

お前が絶賛してたレッドの落ちこぼれにも同じメールを送った。勇気があるのならアカデミアのデュエル場に来い。」

はあ仕方ねえ行くとするか。

俺は転生して原作に関わるかどうか考えてたがせつかく転生したんだからすることにしたぜ。

俺がデュエル場に着いたらそこに万丈目、その取り巻き、十代と明日香がいた。

「来たか黒鉄爽児。俺は遊城十代を潰すが、お前も暇だろう。こいつらと遊んでろ。適当に一人選んでデュエルしとけ。」

「面倒くせえな。一人じゃなくて三人まとめてかかってこいよ。三人もいれば俺のライフを1ぐらい減らせるんじゃないのか？」

「てめえ、調子に乗りやがって」

「上等だ、やってやるよ」

「万丈目さん、デュエル場を使いますよ。」

「いいだろう、お前ら速攻で片を付けろよ。」

「いいの、爽児？一応彼らもブルーの中でも成績上位の生徒達よ。」

「余裕だってこんな奴ら」

そうして4人はデュエル場へ上がった。

「「「決闘」」」

爽児 LP 4000

オベリスクのバカA LP 4000

オベリスクのバカB LP 4000

オベリスクのバカC LP 4000

「ルールを確認する。順番は俺 A B Cで1ターン目は誰も攻撃できない。ライフは全員4000だ。いいな。」

「「「誰がA、B、Cだ「俺のターン、ドロー」」」」

3人n声を遮るようにわざと大声でドローする爽児。

「俺はミンゲイドラゴンを守備表示で召喚。カードを4枚セットしターンエンドだ。」

ミンゲイドラゴン DEF 200

「俺のターン、ドロー。俺は切り込み隊長を召喚する。このモンスター召喚に成功したとき、手札からレベル4以下のモンスター1体を特殊召喚。俺は2体目の切り込み隊長を召喚！」

切り込み隊長 ATK 1200×2

「このモンスターがフィールド上に存在する限り相手は表側表示で存在するほかの戦士族モンスターを攻撃対象にできない。つまり、お前は俺に攻撃できない。ターンエンドだ。」

ただの切り込みロックじゃねえか。そんな得意げに言うんじゃねえよ。

「俺のターン、ドロー。俺は二重召喚を発動。俺はこのターン2回通常召喚が行える。俺はマシユマロンと魂を削る死霊を守備表示で

召喚。ターンエンドだ。」

マッシュマロン DEF 500

魂を削る死霊 DEF 200

おい、普通こっぴうのは裏守備でセットだろうが。

「俺のターン、俺はゴブリン突撃部隊を召喚「畏カード激流葬を発動。モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚されたときに発動でき、フィールド上の全てのモンスターを破壊する。」

「くそっ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、この瞬間ミンゲイドラゴンを蘇生する。」

ミンゲイドラゴン DEF 200

「このモンスターはドラゴン族モンスターの生贄召喚に使用する場合2体分の生贄とすることができる。俺はミンゲイドラゴンを生贄にライトエンド・ドラゴンを召喚。」

ライトエンド・ドラゴン ATK 2600

「ライトエンドでAにダイレクト、シャイニングサプリメーション
！！」

「うっ」

オベリスクのバカA LP 4000 1400

「速攻魔法表裏一体を発動。フィールドのライトエンドをデッキに戻し、ダークエンドを特殊召喚する。」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600

「ダークエンドでAにダイレクト、ダーク・フォッグー!!」

「だからAじゃねえ」

オベリスクのバカA LP 1400 0

「俺は伏せカード破壊輪を発動。フィールド上のモンスターを破壊し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを全てのプレイヤーは受ける。さらにチェーン発動、地獄の扉越し銃。自分が受けるダメージを相手に与える。俺が選択するのはB。」

「うそだあ」

オベリスクのバカB LP 4000 0

「うわああ」

オベリスクのバカC LP 4000 1400

「まだ俺のバトルフェイズは終わってない。俺はリビングデッドの呼び声を発動。墓地のダークエンドを蘇生する。」

ダークエンド・ドラゴン ATK 2600

「ダークエンドでCに攻撃、ダーク・フォッグ！」

「俺何もしてね」

オベリスクのバカC LP 14000

「すごい、1ターン3キル・・・」

「さすが爽児、すげえ。」

「ちっ、使えん屑共が・・・」

3人は爽児の前でがたがたに震えてる。あとで万丈目に叱られることは確実な上にアンティで負けたのだからベストカードを渡さなければならぬからだ。

「アンティのことだが・・・」

3人は半ば諦めている。

「さらば俺のギルフォード・・・」

「俺のメフィストがあゝ」

「くそ、ガーゼットだけは許してくれ」

「・・・いらぬ。別にてめえらのカードが欲しくて来たわけじゃないからな。」

爽児がこういうと3人の顔に光が満ちた。

「さすがね、爽児。」

「おお明日香か。あの程度朝飯前だって。」

「爽児次は俺とやろうぜ。」

「貴様の相手はこの俺様だあ！！！！」

「俺はもう帰る。明日香あとでデュエルの結果教えてくれ。じゃあな」

初の原作ブレイクはこんな風に終わった。余談だが明日香から聞いた話によると十代と万丈目のデュエルは原作どおりガードマンに中断されるも結果十代の勝ち逃げっぽくなったとさ。

V S オベリスクのバカAとBとC（後書き）

『今回の最強カード』は……………

破壊輪

……1回目の最強カードが禁止カードって
まあいいや。まずは破壊輪の効果から見てみましょう

通常罠（禁止カード）

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊し、
お互いにその攻撃力分のダメージを受ける。

（遊戯王カードwikiより）

このカードが凶悪な理由はフリーチェーン、つまり発動タイミング
が自由なこと。そして相手モンスターが破壊できることです。バー
ン効果も見逃せるものではなく実質直接攻撃を食らうようなもので
す。

昔は

デビル・フランケン 青眼の究極竜 破壊輪 地獄の扉越し銃で1
キルが行われてました。カードプールが豊富な今制限復帰はないで
しょう。ちなみに破壊指輪とかいう後釜もあります。この小説では
遊戯王gxの禁止・制限リストに則っているので破壊輪はOKです。

読者の皆様に質問ですがこの小説では遊戯王gx時代のように「生
贄」「生贄召喚」と表現しますが「リリース」「アドバンス召喚」
等に言い換えたほうがいいでしょうか？あと小説1回分は長すぎま
すか？短すぎますか？指摘がなかったらこのままにしますがご意見、

感想、アドバイス等があったら遠慮なく言ってください。

長くなりましたがさようなら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0820ba/>

もう一人の英雄

2012年1月4日15時45分発行